

(1992), 同計画打ち合わせ調査団報告書 (1994), ITTC (Session 8) : Report on Sustainable Forest Management in Sarawak (1990), Forest Department Sarawak : Forestry in Sarawak (1991), STIDC (サラワク木材産業開発公社) : Statistics of Timber and Timber Products, Sarawak (1993), 在コタ・キナバル領事館 : マレーシア・サラワク州木材基礎資料 (1993)

---

## 図書紹介

◎沖繩のモクマオウ 中須賀常雄編著 B5版 139 pp. ひるぎ社, 那覇, 1994  
刊 定価(税込み) 1,500 円

熱帯の造林樹種の中でもモクマオウ類は特異な樹種群である。葉をみると広葉樹とよぶのは憚られるが、普通には被子植物・双子葉植物の冒頭に置かれており、熱帯・亜熱帯の造林にとって重要な樹種である。木材はあまり良くないというが、根粒樹木で、窒素を固定するために痩せ地でも成長が優れているものが多い。本書によると、この仲間の1種が明治41(1908)年に沖縄県に導入され、戦後にはほかの種も加えられて、防風・防潮林および緑化木として植栽されてきた。近年その評価が一部で低くなったとのことであるが、熱帯全体としてみると依然として有用な樹種群である。本書は、わが国におけるモクマオウ関連の文献を渉猟され、それらを整理し、とりまとめられたもので、モクマオウ類の特性を知る上で優れた参考書である。その内容は、I. モクマオウ(分類, 導入史, 16種の性質), II. 造林法(育苗, 植栽及び保育, 生長), III. 沖縄におけるモクマオウの位置付け, IV. モクマオウ関係論文抄録(37編), V. 沖縄におけるモクマオウ造林の問題点, VI. 文献(1920~'83)という構成である。外来樹種の場合、和名に悩まされることがあるが、本書では、モクマオウを総称とし、個々の種については、すでに定着しているもの以外は、学名の種小名にモクマオウを付けるという方法をとっている。なお本書末尾をみると、岸本 司, 比嘉宏仁両氏が編著者に加えられている。(浅川澄彦)